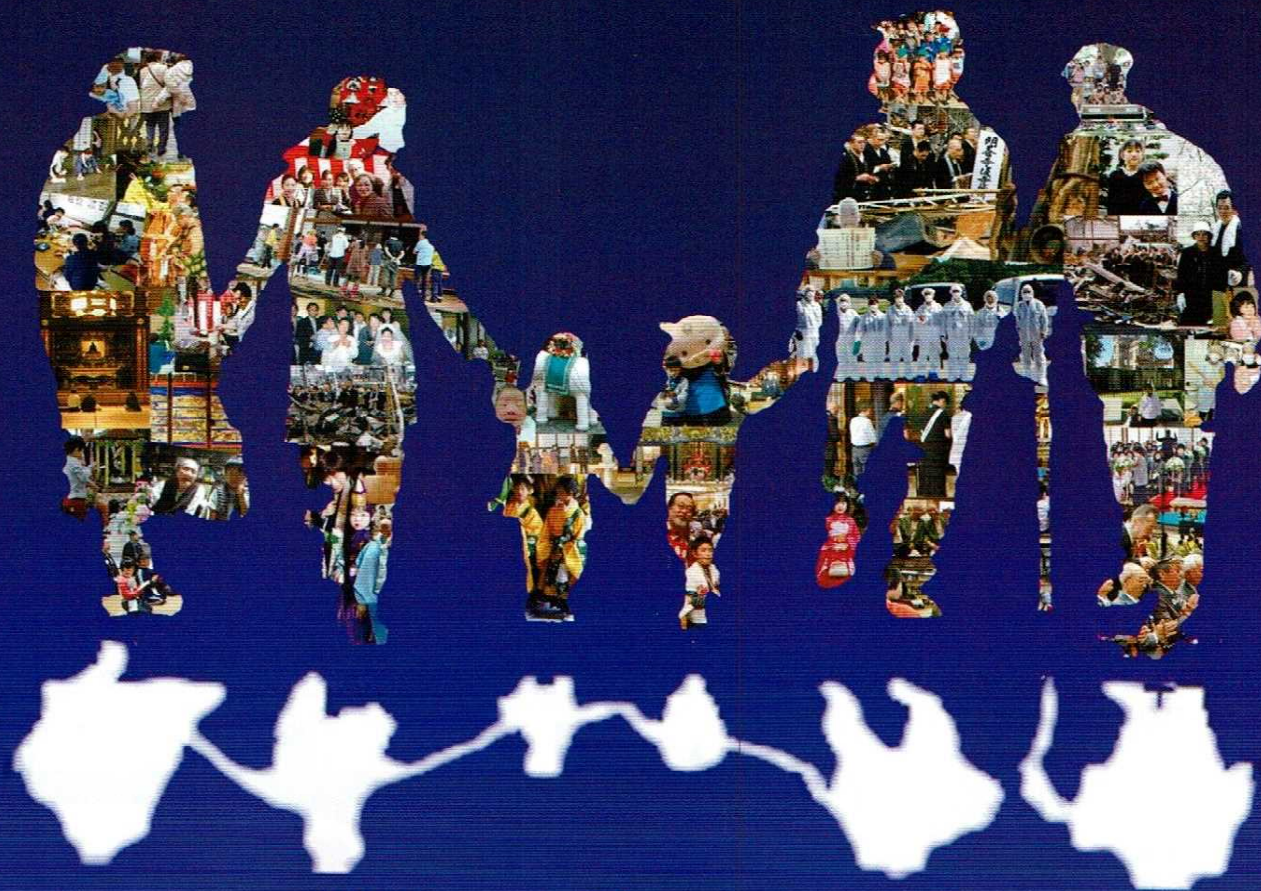


真宗大谷派山陽教区

阪神・淡路大震災 二十五回忌法要

-それぞれの歩みと、ここからの歩み-



講演： おかく てるみ
尾角 光美 氏
(一般社団法人リヴオン代表理事)

2019.2.16(土)12時より(11時30分受付)

兵庫県民会館9階 けんみんホール

主催 真宗大谷派山陽教区

阪神・淡路大震災から24年が経ちました。

あなたにとって、この24年間はどのような年月であったでしょうか。

ほぼ四半世紀の月日が流れると、どれだけ大きな災害や事件であろうと社会的な記憶からは風化していくものであらうと思います。現にすべての悲惨な震災や事件をすべての人がそれぞれ問題意識をもって記憶することは、なかなかできません。

しかし、いまだ、大切な人との突然の別れに悲しみ続けている人や復興住宅問題など様々な問題に苦しみ続けている人がいます。そして、その人々に寄り添い、声を聞き続けている人たちがいます。

一方で、映像などで震災を知り歴史的事実として知っている人、震災後に生まれた人、すべての人がそれぞれの時間を歩んできました。

このたびの法要において、震災で、またその影響によって先立たれた方々を偲び、私たちがこれまでとこれからと今とを確かめ、そして、この場から阪神・淡路大震災に出会い、共に歩いていく人が一人でも生まれていくことを願います。

期日：2019年2月16日（土）

場所：兵庫県民会館9F けんみんホール（兵庫県神戸市中央区下山手通4丁目16-3）

講師：^{おかく てるみ}尾角 光美 氏



一般社団法人リヴオン 代表。国際比較社会政策学修士。
19歳で母を自殺により亡くし、2006年から全国の自治体、寺院、学校などで講演に呼ばれ、2009年リヴオンを立ち上げ、母の日プロジェクト、遺児支援、僧侶のための連続講座、いのちの学校など活動を広げてきた。「グリーンケアが当たり前にある社会の実現」を目指し活動している。
近著に『なくしたものとつながる生き方』（サンマーク出版）
共著『自殺をケアするということ』（ミネルヴァ出版）

講題：「なくしたものとつながる生き方」

- 12:00 開式の辞
真宗宗歌
- 12:05 挨拶 教区会議長
- 12:10 勤行
- 12:55 感話①
- 13:05 感話②
- 13:15 休憩
- 13:35 講演【尾角光美氏】
- 14:35 休憩
- 14:50 シンポジウム
- 15:50 閉会 山陽教務所長
恩徳讃



JR・阪神元町駅より徒歩7分。地下鉄「県庁前」東1・2出入口すぐ

お問い合わせ

真宗大谷派（東本願寺）山陽教務所

TEL 079-292-3690 <http://www.sanyo-kyoku.jp/>